

## おんし 恩師の急死

はやさかふみお くろさわあきら くろさわさくひん  
**早坂文雄は黒沢明とは親友で、黒沢作品の『生きる』や『七  
人の侍』などの音楽を手掛けていました。勝は早坂先生につ  
いて飛び回りながら何本かの作品の音楽を引き受けていま  
した。**

はやさか  
**早坂先生からは「あまりつまらない仕事はやめろ。筆がす  
さぶ(※51)」と常日頃から諭されました。**

※51 すさぶ

たいど  
気持ちや生活態度にゆとりやうるおいがなくなること。

また、『ゴジラの逆襲』の時は「やるからには今までの伊福部さん(※52)のような音楽ではなく、子どもたちが喜ぶような、ゴジラに親近感(※53)を覚えるような音楽をつくれ。」  
『鞍馬天狗』の時は「佐藤でなければできない最高の音楽をつくれ。」など一つ一つアドバイスを受けていました。

昭和 30 年(1955)10 月 15 日突然早坂が亡くなります。  
黒沢明監督の『生きものの記録』の仕事中、病状が悪化し、亡くなってしまったのです。勝も別な仕事の最中でしたが、すぐにお宅へかけつけました。奥様は突然のことにおろおろするばかりです。

#### ※52 伊福部さん

伊福部 昭、日本を代表する作曲家の一人。

#### ※53 親近感

親しみやすい感じ。

まさる そうぎ だんど れいぜん な  
勝は、葬儀の段取りをつけて、霊前(※54)で泣きながら作  
曲をしました。

くろさわかんとく はやさか とつぜん なげ  
黒沢監督は早坂の突然の死を嘆き悲しみ、『生きものの  
きろく さつえい くろさわぐみ さつえい  
記録』の撮影も手につかなくなり、黒沢組の撮影は一時中止  
となりました。

はやさか いこう  
しかし、音楽をどうしようかということになり早坂の遺稿  
(※55)を調べると、メインテーマのデッサンと、ピアノの譜面  
ふめん  
だい よんしょうせつ のこ  
台に書きかけのデッサンが四小節だけ残っていました。それ  
まさに 勝が続きを引き受けることになります。

#### ※54 霊前

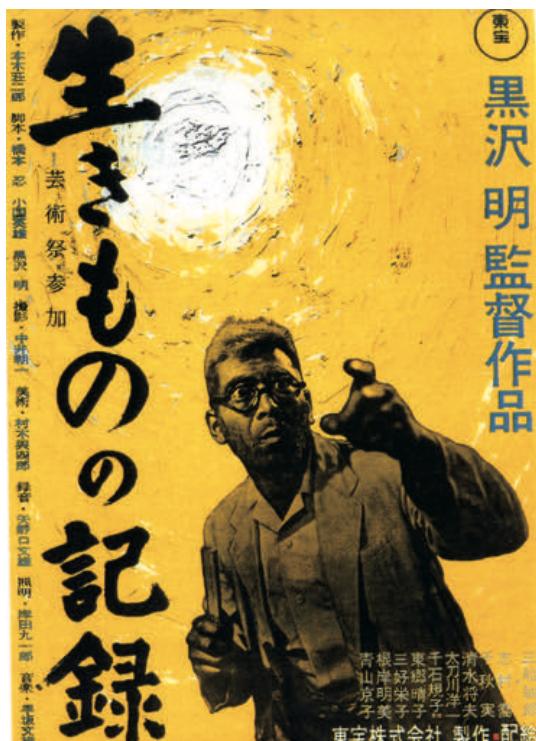
うやま れいぜん  
死んだ人を敬って、その靈前を言うことは。

#### ※55 遺稿

な しよもつ  
亡くなった人の生きていた時の書物や日記などをまとめたもの。

むずか  
難 しい仕事でしたが何とかやり遂げ、クレジットタイトルに  
はやさかふみ お いさく  
「早坂文雄遺作」(※56)の文字を見たときは涙があふれて止  
なみだ  
まらなかつたそうです。

えん くろさわかんとく  
これが縁で黒沢監督と仕事をするようになります。



生きものの記録のポスター

いさく  
※56 遺作  
しほう のこ  
死亡した人が残した文学や音楽などの作品。